



## 佐賀市適応指導教室「くすの実」で大学院生らが理科実験教室を実施(6)

### 【概要】

不登校支援機関の適応指導教室「くすの実」にて理工学部の教員と循環物質化学専攻大学院生らが本年度最後の理科実験教室を実施しました。

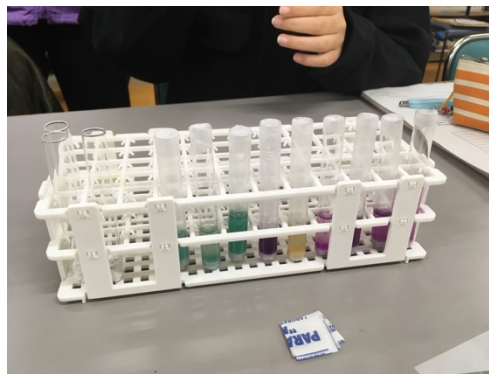
### 【本文】

理科実験教室支援活動は、佐賀市教育委員会の不登校支援機関である適応指導教室「くすの実」の要請により、理科への興味をきっかけに子供達の就学意欲を惹起することを目的に平成 17 年から行なっています。

本年度最後となる 6 回目の理科実験教室は、令和元年 11 月 22 日(金)に循環物質化学専攻の大学院生と機能物質化学科の大学 4 年生が、理工学系化学部門 長田 聡史 准教授とともに、「COD 測定で水の汚れを調べてみよう!」と題して実施し、化学的酸素要求量 (COD) 測定試薬を作成し、水質を調べる実験をしました。

COD 測定とは、酸化剤によって水中の有機物を酸化分解させ、その際に消費される酸素量を、酸化剤として用いる過マンガン酸カリウムを用いた試薬溶液の色調変化で近似するものです。水道水、河川水、金魚の水槽の水、牛乳やジュースを 1000 倍に薄めた溶液など様々な試料に対して COD を調べると、河川水より飲料を薄めた溶液の方が COD が高くなることに生徒たちは驚いていました。実験を通じて生活排水について意識を持ってもらい、水の中の微生物の働きについて解説しました。

今回は、理科の教科書で分からないところを教えて欲しいという生徒もおり、大学院生や大学生との 1 年間の交流で理科に一層興味を持ってくれた生徒さんが増えたことを嬉しく思います。



「理科実験教室」の様子